

松 緑 白 花

**Vol 2 4**

石垣市立石垣中学校  
教 頭 市原 教孝

10/7(水) 世のため、人のために 今年度も後半 南校長先生が講話



この日朝、校長先生は「表彰集会」で、陸上・バスケ・科学・漢検など、たくさんの生徒の活躍を讃えていただきました。続いて「勝敗だけがすべてではありません」ときっぱり。「天から授かった、親からいただいた才能をいかに伸ばすかが大切です。夢を描き、目標を定め、いかに努力するかです。勝敗はその次です」と。それから次のように語ってくれました。

10月、平成27年度も折り返し。3年生にとっては残り5ヶ月、もう追い込みです。昨日、教育委員会の先生方からも「石中はすっかり落ち着きましたね」とほめていただきました。しかし、私は少しもの足りなさを感じています。確かに落ち着いた状態ではありますが、みなさん、一人一人が本当に真

剣であるかどうか。「心のスイッチ」が入っているかどうかです。一昨日、昨日とビックニュースが届き、ニュース・新聞を賑わわせていますね。そう、世界で最も権威ある賞といわれているノーベル賞。今年も大村智氏が医学・生理学賞を、梶田隆章氏が物理学賞を受賞しました。日本人24人目。すごいと思います。本人の努力が素晴らしいのは当然ですが、日本の学校教育もそれを支えているのは確かです。学べることに感謝して、大きな夢を持ち、自立した社会人になって下さい。世のため、人のため、社会の発展に寄与する人になって下さい。

心のスイッチ

東井 義雄

人間の目は ふしぎな目  
見ようという心がなかつたら  
見えても見えない  
人間の耳は ふしぎな耳  
聞こうという心がなかつたら  
聞いていても 聞こえない  
頭もそうだ

はじめからよい頭わるい頭の  
区別があるのではないようだ  
「よし、やるぞ!」と  
心のスイッチが入ると  
頭もすばらしいはたらきを  
しはじめ

心のスイッチが 人間を  
つまらなくもし  
すばらしくもしていく  
電灯のスイッチが  
家の中を明るくもし  
暗くもするようにな

(ネットより)



## 元高校教師、2億の命を救う ノーベル賞の大村智先生

大村智先生(80歳、北里大学特別栄誉教授)が今年のノーベル医学・生理学賞を受賞。山梨大学を卒業後、教師を志し、東京都教員採用試験に合格、定時制高校の先生に。化学と体育を教えた。「生徒たちは自分と同年代。昼間は町工場などで働いて全身油まみれ、汗まみれで登校してくる。彼らの一生懸命ぶ姿を見ながら、自分も勉強し直さないと」。一念発起して東京教育大学(筑波大学)の研修生に、さらに東京理科大学大学院の修士課程に進んだ。

1965年北里研究所に入り、さらに1971年米国ウエスレーヤン大学でマックス・ティシュラー教授の研究室に移った。「イベルメクチン」という偉大な薬は、静岡・伊豆半島のゴルフ場近くの、ありふれた土の中から生まれた。土を採取し、その中の菌を分離、分析する。家畜動物の寄生虫駆除に効果を発揮する物質が発見され、さらに熱帯地方にまん延、2億人の命を奪ってきた「オンコセルカ症」にも劇的な効果を発揮した。

「人まねをするな」が信条の大村先生。「奇跡の薬」が静岡から生まれた理由を「たまたま」と。「全国各地で、1年に2500株は採取する。菌を培養して評価するが、たいいていの菌は活用できない。その繰り返し。大変な作業です」。先生は財布を取り出し、「中味のお金は少ないよ」と笑いながら小さなビニール袋を見せた。「絶えず持ち歩いて、今でも土などを採ったら研究室に送るんです。寝ても覚めても、絶えずそういう気持ちでいる中から、いいものがみつかる」。先生の研究意欲は衰えを知らない。(ネットやニュース報道等より編集)

**10/3(土) 久高航弥が一矢  
U15サッカー県大会**

相手は7月大会県優勝、全国出場の小祿中。全力でぶつかった。前半終わって0-3。後半開始10分、CB金城竜馬(10番)が右センターライン付近からFK。左から走り込んできたMF航弥(4番)が左足で合わせたボールはゴール右隅に。反撃の狼煙。走りに走った60分。結果



は1-5。全力を尽くし、敗れて悔いなし。すばらしい試合だったと聞いています。頑張った者だけが味わえる達成感。新しい目標に向かう石中イレブンの大きな力となることでしょう。よく頑張りました。唐真先生の健闘の報告に職員室も笑顔で包まれました。ありがとう。

**9/10(木) 祝合格 第2回漢字検定**

【3級】上地海春(2-3)、宮良杏優(3-1)、  
新里竹直(3-3)、内原はな恵(3-4)、  
石垣綾子(3-5)、久原望未(3-5)、  
下地紀和(3-6)

【4級】山本風彩(2-1)、久貝心愛(2-2)、  
新垣愛莉(2-3)、武岡春菜(2-3)

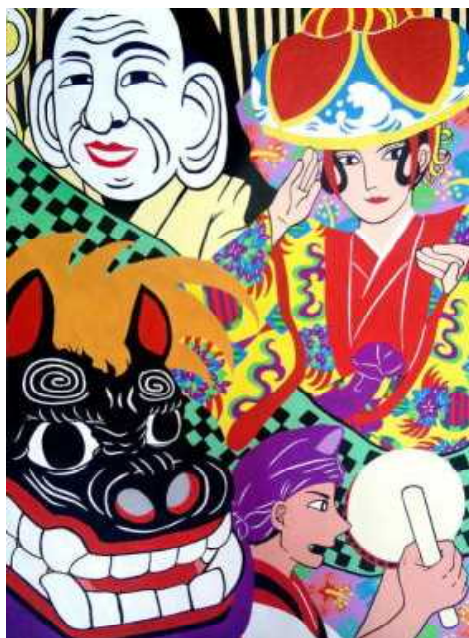


上地海春さん



當間理桜さん

**9/29(火) 優秀賞** 當間理桜さん(3-1)が  
地区中文祭ポスターに



姉妹都市カウアイ郡  
中学生派遣事業

今回のカワイイ派遣は、一生心に残る大切な思い出になりました。ファミリーと初めて対



大切な思い出

石垣中学校 仲吉 彩翔

もと甘い考えがあまりま  
でもノリが良くて、み  
なと感じました。み  
んな温かくて、充実し  
たスクールライフを送  
ることができました。

カウアイを離れる日  
は、とても寂しくて、い  
つの間にか、帰るたく  
わいを感じました。

ホストファミリー  
さんは、いろいろな所  
に連れて行ってくれ、  
いっしょしました。カバ  
ーのクラスで交流を  
しました。2日目は、  
日本語クラスで、自己  
紹介とスピーチを行  
いました。お父  
さんと一緒にトランポ  
リンをしました。お父  
さんは、いろいろな事  
はまったくなく、やはり  
ここは英語を話す国な  
のだと痛感しました。

間かけて、ハワイに到着し、飛行機を乗り継いでカウアイ島へ向かいました。到着後、フリスナーのお店「タコベル」で食事を済ませ

面しました。もう本当に緊張しまくって、不安だらけでした。でも心のどこかで、「少しは日本に適したりするかな」と思っていました。高校への進学が始まり、ア高校生活はみんな個性に、未来に向かって進んでいきます。このように貴重な体験をきかす機会が、心に残ると思います。

(八重山毎日新聞 平成27年10月8日木)

## 10/6(火) 石垣市教育委員会が本校を訪問

## キャリア教育充実等についてアドバイス

教育委員の先生方からは口々に「あの石中かと思うほどに学校が落ちついている。先生方と生徒たちとの距離が近い。愛情・熱意を感じる」と驚嘆の声。高里正明委員は「人間の多様性に対して、寛容さが求められている時代。石中の一人一人に対する配慮ある取り組みは進歩的」と。宮良永秀指導課長は「世の中にはいろんな人がいる。いかなる場合も現状を受け入れ、ともに生きていこうとする心情を育てる、その術をともに考えていくのが学校」と。続けて「決して“厄介もの”扱いをするような無慈悲な子どもを育ててはならない」と助言いただきました。さらに大きな課題・キャリア教育について、「福井県のすばらしいところは、県民の勤勉性。周りに頑張る大人たちがいる。日常生活そのものがキャリア教育」と。「なるほど」と思いました。PTAや地域としっかり連携して「すべて我が子」のあたたかい校区、モラル高い校区を創っていかねればと思いました。最後に石垣朝子教育長から「自転車の並び、靴の並び、校長先生のリードの下、すべての先生方がひとつの組織として取り組んでいる姿、力強さを感じます」と何よりのお褒めの言葉。ICT教育の充実等、ご指摘いただいた諸課題、解決に邁進していきます。

